

子どもたちと一緒に考える被災地の復興支援

東日本大震災後3年8か月がすぎた今、子どもたちの故郷である被災地はかさ上げによって以前の姿を消し、ブルドーザーや重機の騒音の中で暮らしを余儀なくされる毎日です。今こそ、この復興がどこに向かうのか、何をどのようにつくり替えようとしているのかを子どもたちは一緒に実感しなければならない時期です。一刻も猶予のない子どもたちは何を感じ、自分の歩みをどのように続けているのでしょうか。そうした子どもたちに今後、私たちは何を支援しなければならないのでしょうか。

私たちは、子どもの声を大切に、被災地域の復興に子どもの声を反映させるためのあり方を、考え進めてきました。2012年1月に実施した第1回シンポジウムではおとなたちで考えました。2013年1月に実施した第2回目からは、被災後いろいろな形で寄り添ってきた子どもたち(中・高校生)が集い、大学生と一緒に支援の在り方について語りました。3回目には福島の子供たちが加わり、子どもたちは積極的に出会いと語りの場を求め、自分たちの発言を具体化する方法を探ってきました。

被災地の子どもたちは、東京の同世代や大学生、おとなたちに語ることで、新しい自分を見つけていきます。第4回にあたる今年も、この子どもたちの営みを支え、子どもたちの意見を受け止めたいと思います。

私たちおとなは、その意見を聴き、新たな段階に入っている被災地支援について、子どもたちと一緒に考え、提言をしていきたいと思ひます。ぜひ、ご参集ください。

【日時】2015年1月11日(日)13時～17時 ※受付12:30～

【場所】東洋大学 白山校舎 8号館 7階 125 記念ホール(東京都文京区白山5-28-20)

* 正門左の白山通りに面した8号館玄関を入り、右手にある7階直通的エレベーターをご利用ください。

都営地下鉄三田線白山駅A3出口より徒歩5分/東京メトロ南北線本駒込駅1番出口より徒歩5分

司会進行：荒牧重人(東日本大震災子ども支援ネットワーク運営委員 山梨学院大学教授)
森田明美(東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長 東洋大学教授)

<プログラム>

- 1 基調報告：東日本大震災における子ども支援の取り組みのこれまでとこれから：森田明美
- 2 被災地の子どもたちの報告と大学生・支援者との意見交換(4グループに分かれて意見交換)
意見表明する被災地の子どもたち
ファシリテーター：林大介(東洋大学)、浜田進士(NPO子どもの権利条約総合研究所)
谷川由起子(NPOこども福祉研究所)、片貝英行(NPOキッズドア)
中高生(福島県いわき市、郡山市、岩手県山田町、宮城県登米市、宮城県南三陸町、石巻市
東京など避難者)約20名(予定)、東洋大学社会学部学生、
3. 全体討議：4つのグループの報告を受けながら参加者と一緒に考えます
4. 参加団体からのメッセージ

* 17時30分から子どもたちを囲んで軽食付きの交流会を実施します。参加費500円 **申し込み**

【主催】東日本大震災子ども支援ネットワーク

【問い合わせ】東洋大学白山校舎 森田明美研究室

TEL・FAX 03-3945-7481 E-mail :info@shinsai-kodomoshien.net

【後援】東洋大学社会学部・東洋大学福祉社会開発研究センター

【協力】生活協同組合コープみらい、住友商事株式会社(東日本再生ユースチャレンジ・プログラム)、日興アセットマネジメント、NPOしんぐるまざーずふぉーむ福島、NPOキッズドア、NPOこども福祉研究所